

パブロ・ピカソ『ゲルニカ』の世界

3. 灯火を持つ女



灯火は「真理」の象徴。

女が灯火(真理)を暴力の象徴である牡牛に差し出し脅威を退けようとしている。西洋絵画では、伝統的に蠟燭や灯火を真理の象徴としている。



反戦の意を込めて

爆撃の様子をリアルに描くのではなく、様々な角度から見た姿を画面にまとめて描くキュビズムや、現実を超越したシュルレアリスムなどの手法で描いています。これによって、ゲルニカ爆撃だけでなく、戦争の悲劇さを人々に訴えています。

「ゲルニカ」に描かれているものとは？その意味とは？

「ゲルニカ」は、スペインの内戦を題材にした作品です。1937年に反乱軍のフランコ將軍を支援するナチスによって行われたスペイン北部の小都市ゲルニカに対する無差別爆撃が題材になっています。この事件は、当時ファシズムの残酷さを象徴するものとして、国際的に激しい批判の対象とされていました。

制作: R 5年 11月 13日

作者名
(ニックネーム)

おきなさうさ

Famous Painters' Work 名画で塗り絵を楽しみましょう